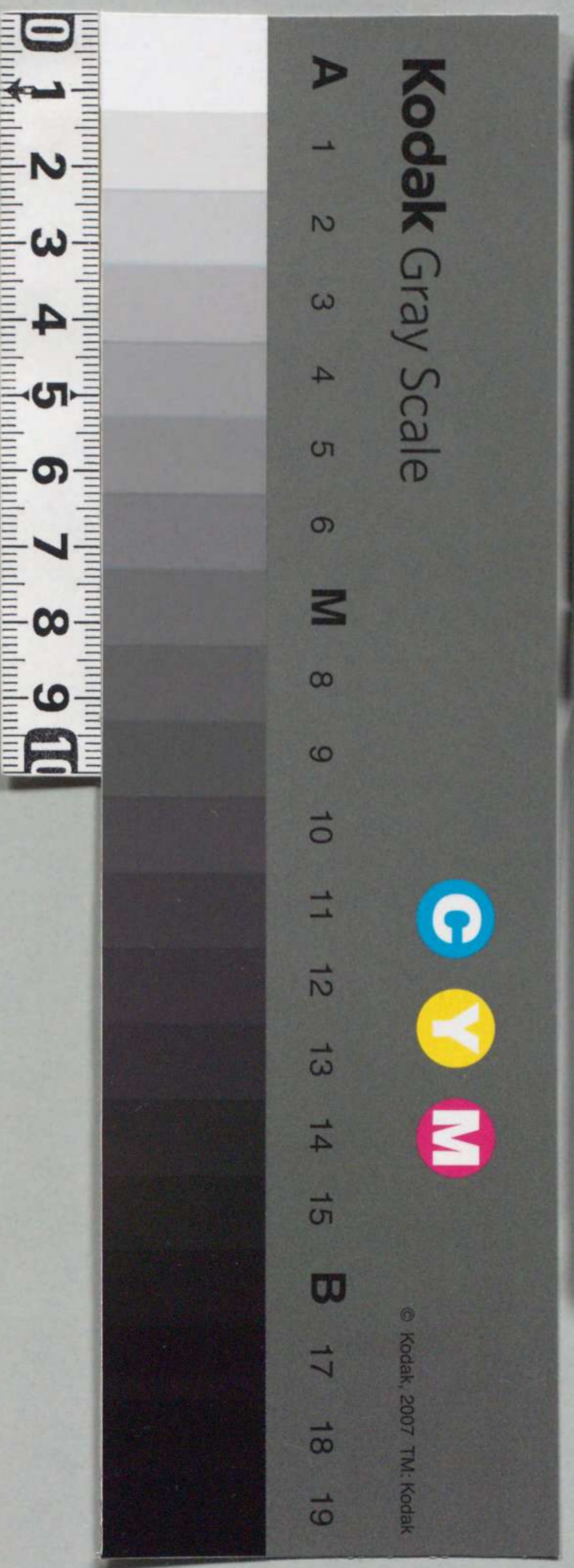


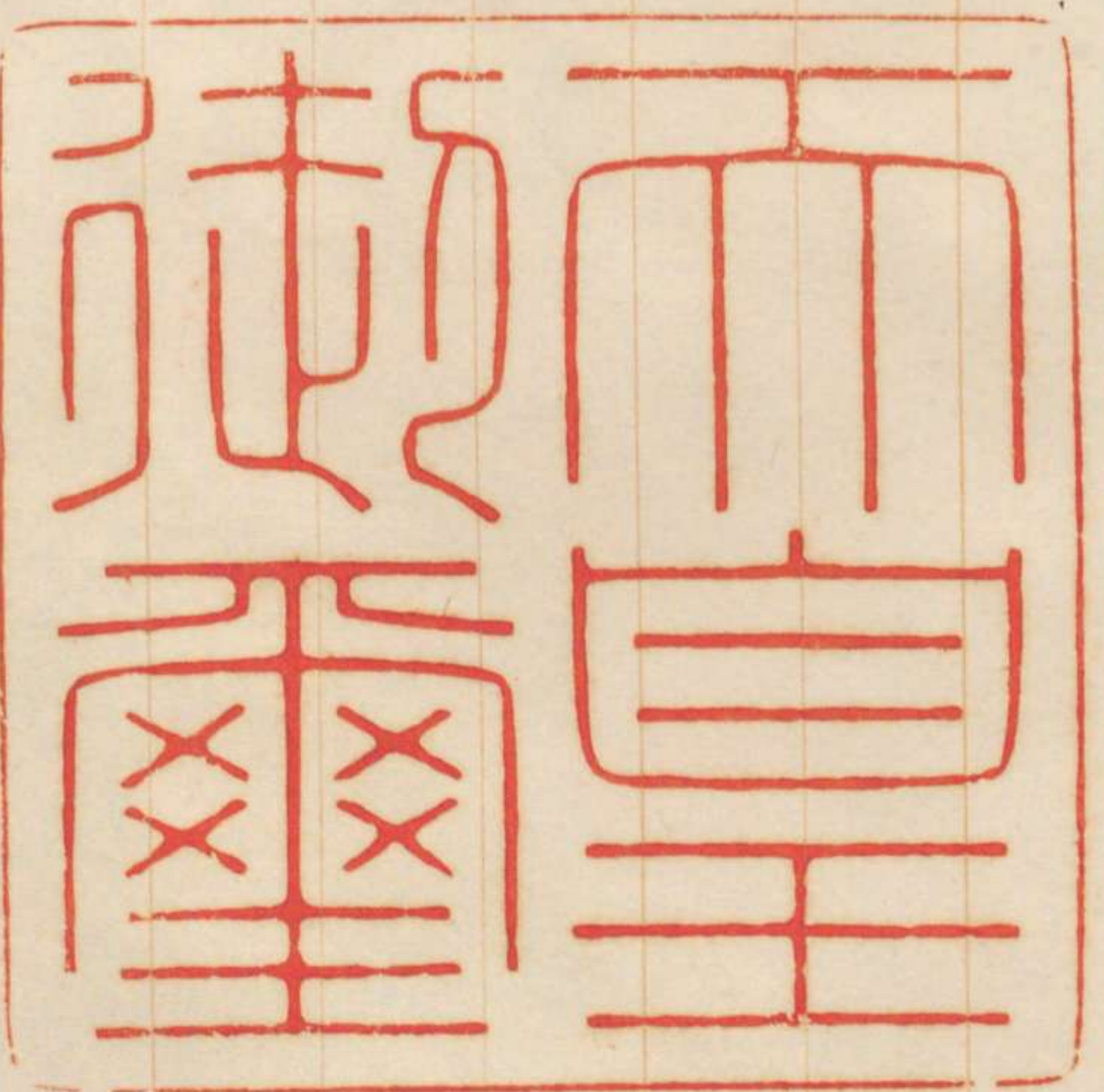
法身七千号

信
大



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル日本興業銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治三十三年二月二十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第七十號

日本興業銀行法

第一章 總則

第一條 日本興業銀行ハ株式會社トシ
具ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本興業銀行ノ資本金ハ一千
萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之
ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本興業銀行ノ株式ノ金額ハ
百圓トス

第四條 日本興業銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 日本興業銀行ニ總裁一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本興業銀行ヲ代表ス總裁及理事ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本興業銀行ノ業務ヲ綜理ス
監査役ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監査

ス

第七條 總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ具ノ任期ヲ五箇年トス

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ具ノ任期ヲ三箇年トス

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ具

ノ任期ヲ二箇年トス

第八條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘
ラズ他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコ
トヲ得ス

第三章 營業

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營
ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及
株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ

應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 地方債證券、社債券及株券ニ関
スル信託ノ業務

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金
アルトキハ國債證券、地方債證券及社
債券ノ買入ヲ為スコトヲ得

第十一條 日本興業銀行ハ本法ニ記載
セザル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章 債券

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金
額ノ五倍ヲ限り債券ヲ發行スルコト
ヲ得但シ其ノ貸付金現在高及其ノ所
有ニ係ル地方債證券及社債券現在高
ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上
トシ無記名利札付トス但シ應募者又
ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコ
トヲ得

第十四條 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ

發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ但シ外國ニ於ケル債券
發行ノ規定ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定
ム

第十五條 日本興業銀行ノ債券ノ利子
ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金
ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内ニ抽籤
ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 日本興業銀行ハ其ノ債券借
換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ

於テハ第十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十七條 日本興業銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ闕損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配

當ノ平均ニ以上ノ爲利益ノ百分

第六章 政府ノ監督及補助

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主



於テハ第十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 備金

第十七條 日本興業銀行ハ毎營業年度準備金トシテ其ノ利益ノ百分之十ノ額ヲ積立テ且利益配



當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主

務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 日本興業銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 日本興業銀行ハ主務大臣ノ命令ニ従ヒ其ノ營業ニ関スル諸般

ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ日本興業銀行監理官ヲ置キ日本興業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 日本興業銀行監理官ハ何時ニテモ日本興業銀行ノ金庫券書庫帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本興業銀行監理官ハ株主總會具ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述

スルコトヲ得

第二十六條 日本興業銀行ノ配當金ニシテ毎營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ違セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限り之ニ違セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第二十七條 日本興業銀行ニ於テ左ノ

事犯アリタルトキハ總裁及理事ヲ百

圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事

犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受

クヘキ場合ニ具ノ認可ヲ受ケサ

ルトキ

二 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記

載セサル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ

債券ヲ發行シタルトキ

第二十八條 日本興業銀行ノ總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

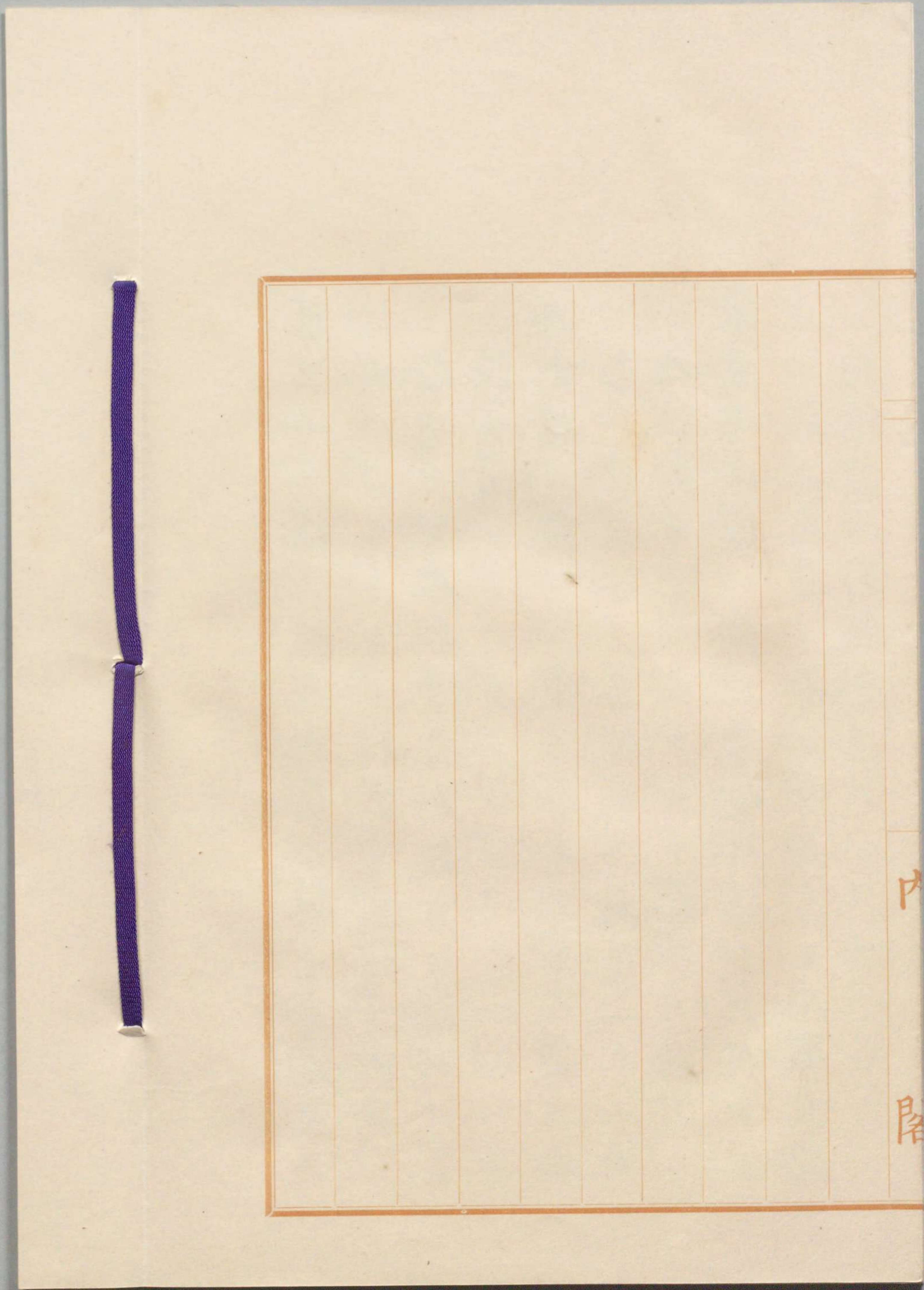
第二十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本興業銀行ノ設立ニ関スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日本興業銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本興業銀行總裁ニ引渡スヘシ



内

啓